

新潟県の空襲被害

Air raid Damages on Niigata Pref.

秋山 正道
Masamichi AKIYAMA

要旨

本論は新潟県内（以下「本県」と表記）における空襲被害の実際を明らかにすることを目的とする。時期は第二次世界大戦中（1939～1945）とする。第二次世界大戦中、日本が受けた空襲被害は1945年にほとんどが集中している。その嚆矢が3月9日深夜から10日にかけて行われたいわゆる東京大空襲であり、最大の山場が8月6日の広島、8月9日の長崎への原爆投下であり、これが日本政府のポツダム宣言受諾に大きく影響したことは周知のとおりである。この空襲はすべて米軍によって行われた。中小規模の都市への空襲は6月17日～18日にかけて鹿児島・大牟田・浜松・四日市の4都市に始まり8月14日の熊谷、伊勢崎（群馬県）の都市空襲まで続いた。この間、18回にわたり空襲が繰り返され、60都市がその被害を受けた。しかし、日本政府がポツダム宣言を受諾した8月14日に空襲を受けたのは上の2都市のほかには大阪市と秋田市もあったこと分かるように被害の詳細は必ずしも正確にされてはいない。本県においても空襲を受けた都市として長岡市が知られているが、小規模ながら他の都市でも空襲の被害が出ている。そこで、本論では、先ず長岡市の空襲被害を中心に述べ、ついでその他の県内各市の被害の実際について述べることによって本県の空襲被害の全体を明らかにする。

キーワード：長岡空襲、坂町空襲、直江津黒井空襲、柏崎空襲、アメリカ第20航空軍

1 長岡市

（1）空襲の経緯

人口70,000人の長岡市は、本州中部地方の北部に位置し、機械と工具生産の重要な中心地であり、また鉄道の連結点である。市の市街地面積は2.1平方マイルで日本海〔ここでは正しくThe Japan Seaとしてある〕の海岸から12マイル〔19km〕の内陸にある。

第313航空団は、この目標を136機で攻撃し、そのうちの125機が、第1目標に934トンの焼夷弾を投下した。爆撃は12,500フィート〔3,800m〕の高度から、2/10の雲量を通して行われた。5機は別の目標を爆撃し、6機は早期に帰還した。1機の風走機と1機のスーパー・ダンボ機も出撃した。37機が硫黄島に着陸した。

104機の敵機が目撃され、5機だけが攻撃をかけてきた。中級高射砲の砲火は弱く不正確であった。失われたり損傷したりした機はなかった。空

襲後の写真は得られなかった。

（『八王子空襲の記録』p77-78）

以上は米軍資料「第20航空軍週間情報誌 第1巻、23号」からの引用である。

8月1日の警報と空襲時刻

警戒警報	発令	8月1日21時06分
空襲警報	〃	同 22時26分
爆撃開始		22時30分
終了時刻		8月2日0時10分
空襲警報	解除	8月2日0時35分
警戒警報	〃	同 2時17分

長岡空襲は、昭和20年（1945）8月1日午後10時30分から1時間40分にわたった。サイパン島の隣のテニアン島の北飛行場（原爆投下機と同じ飛行場）から飛来した125機のB29によって、高度約3,000mから行われた。はじめに先導隊（パスファインダー機）12機が爆撃の目印として、

M47大型焼夷爆弾2,172発と黄燐焼夷爆弾12発を宮内・新町方面・長生橋から町の中心部に向けて投下した。その後、本隊である後続の113機が目印を目標に、4,244発のE46集束焼夷弾をつぎつぎと投下した。1発のE46集束焼夷弾には38発のM69子弾が納まっているので、計16万3千発を超える焼夷弾が長岡を襲ったこととなる。

(『太平洋戦争と長岡空襲』p23)

長岡が空襲の標的にされた理由として、敵国の総指揮官であった山本五十六元帥の出身地であることについては何ら触れられていない。工業都市であることや交通の要衝に位置していることなどを理由としてあげていることから、米軍は日本の国内事情についてかなり詳細な調査をしていたことが分かる。

東京大空襲といわれる昭和20年3月9日深夜の空襲では、第73、第313、第314の3個航空団が投入されたが、その1個航空団である第313航空団が長岡を襲ったのである。ちなみに東京大空襲ではB29爆撃機は325機が飛来している。

(2) 被害

死者数 1,476人 焼失戸数 11,986戸

(『太平洋戦争と長岡空襲』p23)

長岡市本町3丁目にある平和の森公園には平和像があり、以下のように記されている。

1945年8月1日、ここ長岡に投下された数千の爆弾は、いたいけな280余のいのちさえうばい去った。その霊をなぐさめる道は、一すじに平和をまもり戦争をなくすることだ。

1951年11月3日

建設 新潟県教職員組合

これは空襲で亡くなった1,476人の中に280名あまりの学童がいたということを示す。新潟県教職員組合は約150万円の募金を集め、「平和像」という名の像をつくり、昭和26年(1951)11月3日に長岡駅前広場に建てた。その後、この像は悠久山公園、明治公園と転々としたが、平成8年に現在地に移設された。

長岡駅前(長岡市城内町2)にある長岡戦災資料館のパンフレットには戦死者数が1,477人と記されており、確たるところは不明である。

空襲は長岡駅前から信濃川にかけて、北は北長岡駅から南は宮内駅まで、当時の長岡市の市街地

ほとんどを焼き尽くした。被災者は58,773人に上り、当時の全人口の8割を占めた。焼失した家屋も8割に上っている。

その中で空襲によって亡くなった人が最も多かった場所が平潟神社であった。

私たち6人が一緒に家を出ると、もう火の手が上がっていた。大通りはものすごい雑踏で、6人が一緒に逃げられる状態ではなかった。すぐ近くに平潟神社があり、そこには誰でも入ることのできる大きな防空壕があったので、そこに行ったが人が溢れていて入れなかった。それが私たちにとって運命の境目だった。

もし、あの時、防空壕に入っていれば6人とも死んでいたであろう。

(『長岡空襲の体験記録』p38)

ここ平潟神社では最も多い268人が亡くなったという。そこで、一般からの寄付金と長岡市及び新潟県の補助金によって、昭和33年11月に「戦災殉難者慰霊塔」が建設された。慰霊塔には「このような不幸を再び繰り返さないよう願いを込めて」と刻まれている。

(3) 長岡を空襲した航空団

米軍による日本本土への空襲は大きく3期に分けられるという。第1期は1944年11月の作戦開始から3月4日までの高々度精密爆撃の時期。白昼、高度9千メートルの高さから生産工場を対象に目視爆撃によって破壊しようとした。

第2期は3月9日の東京下町を対象にした夜間空襲から6月15日の大阪・尼ヶ崎の白昼空襲までの約3か月間で、主に大都市をねらった時期である。

第3期が6月17日から8月15日の約2か月間で長岡空襲もこの時期に当たる。日本の空襲はXXI爆撃機集団によって行われたが、これは第58、第73、第313、第314の4航空団によって構成された。そしてこの4航空団が同日、一斉に4都市を空襲するのである。この間の都市は地方の中小都市が狙われた。これを具体的に『八王子空襲の記録』によってみてみよう。

野戦命令10号 7月28-29日 夜間

No.297 (58) 津市街地

298 (58) 青森市街地

299 (73) 一宮市街地

300 (313) 宇治山田市街地
 301 (314) 大垣市街地
 302 (314) 宇和島市街地
 303 (315) 東亜燃料工業和歌山精
 所第11回石油作戦

野戦命令11号 7月29日 昼間
 S B M No.10 (509) 宇部窒素, 宇部曹達,
 日本発動機油
 No.11 (509) 郡山, 東京都保谷
 No.12 (509) 和歌山, 舞鶴
 これらは模擬原爆パンプキン(8発)の投下

この直前に米軍組織に編成替えがあった。それはインドのXX爆撃機集団やマリアナのXXI爆撃機集団については後方のワシントンに第20航空軍を置いて指揮したが、7月16日グリニッジ標準時午前0時を期して、ワシントンの第20航空軍を廃止し、グアムのXXI爆撃機集団が昇格した形で第20航空軍になった。また、これを統轄する組織として合衆国陸軍戦略航空軍(U S A S T A F)が新設された。これは対日戦の最終段階に備えての新編成だという。分かりやすく示すと以下ようになる。

合衆国陸軍戦略航空軍(U S A S T A F)
 ; グアムに置かれた

- 第20航空軍; グアムに置かれた
 - ・第 58航空団
 - ・第 73航空団
 - ・第313航空団
 - ・第314航空団
 - ・第315航空団
- 第8航空軍; 沖縄に置かれた
 - ・第316航空団

このうち第315航空団は石油作戦(夜間に精油所や貯油施設を爆撃すること)を専任した。他の航空団に最も遅れてグアム最北端の北西飛行場にやってきた。

次に野戦命令番号(Field Order Number)について説明しよう。XXI爆撃機集団として発令したものを99号までとし7月16-17日夜の第9回中小都市空襲を命じた野戦命令は、いったん100号として発令したあとで、第20航空軍の野戦命令1号と訂正した。野戦命令については、新編成以後新たに付けられた通し番号をいう。

No.について、これは作戦任務番号(Mission Number)で、1944年10月27日にトラック諸島に最初の訓練出撃したのを1番として、以降のすべての作戦に付けられた通し番号である。そのあとの()の中の数字は航空団の番号である。都市名は空襲の被災地名である。

野戦命令12号 8月1日-2日 夜間
 No.306 (58) 八王子市街地
 307 (73) 富山市街地
 308 (313) 長岡市街地
 309 (314) 水戸市街地
 310 (315) 川崎石油企業群
 第12回石油作戦

野戦命令13号 8月6日 昼間
 S B M No.13 (509) 広島にウランウム原子
 爆弾を投下

野戦命令14号 8月5日-6日 夜間
 No.312 (58) 佐賀市街地
 313 (313) 前橋市街地
 314 (73, 314) 西宮-御影市街地
 316 (58) 今治市街地
 315 (315) 帝国燃料興業宇部工場
 第13回石油作戦

野戦命令15号 8月7日 昼間
 No.317 (58, 73, 313, 314)
 豊川海軍工廠

野戦命令16号 8月8日 昼間
 No.319 (58, 73, 313) 八幡市街地
 320 (314) 中島飛行機武蔵製作所
 S B M No.14 (509) 宇和島, 敦賀
 No.15 (509) 徳島, 四日市
 これらは模擬原爆パンプキン(5発)の投下

野戦命令17号 8月9日 昼間
 S B M No.16 (509) 長崎にプルトニウム
 原子爆弾を投下

野戦命令18号 8月8日-9日 夜間
 No.321 (58) 福山市街地

野戦命令19号 8月9日－10日，
8月10日 夜間及び昼間
No.322 (315) 日本石油尼崎工場
第14回石油作戦
323 (314) 東京造兵廠群

野戦命令20号 8月14日，8月14－15日
昼間及び夜間
No.325 (58) 光海軍工廠
326 (73) 大阪陸軍造兵廠
327 (313) 岩国駅(麻里布)操車場
328 (315) 日本石油土崎工場
第15回石油作戦
329 (313, 314) 熊谷市街地
330 (73, 314) 伊勢崎市街地
S B M No.17 (509) 鳥居松
18 (509) 譽母(ころも)

これらは模擬原爆パンプキン(7発)の投下
その他、以下の作戦任務番号は機雷投下作戦である。

No.304 (313) 7月29－30日の夜間
No.305 (313) 8月1－2日の夜間
No.311 (313) 8月5－6日の夜間
No.318 (313) 8月7－8日の夜間
No.324 (313) 8月10－11日の夜間
No.331 (313) 8月14－15日の夜間

ここでS B Mというのは「特殊爆撃任務」の略で、
原爆投下とそのための模擬原爆投下を含む作戦すべてをいう。この作戦を専任したのが第509混成
軍団である。第313航空団に所属し、テニアン島の北飛行場4本の滑走路を共有した。この表には
ないが、7月20日から8月14日までの間に49発
の模擬原爆パンプキンと2発の原爆を投下したのである。

(4) 長岡に投下された模擬原子爆弾

7月20日、S B Mとしてはじめて模擬原子爆
弾が投下されたのが長岡市であった。この爆弾投
下について『長岡市史』は次のように記している。

7月20日の朝、8時7分、3度目の警報が
出た直後、上組村左近に模擬原子爆弾が投下さ
れた。4人が死亡し、5人が重軽傷を負った。
蔵王の大阪機械長岡工場の監視哨からは水道タ

ノクの方向に煙のようなものが見えたという。
爆弾の投下地点から150メートル離れていた農
家がほぼ全壊したが、家族は避難して助かった。

この爆撃はアメリカ陸軍の第508航空軍が原
子爆弾投下のトレーニングのために実施したも
ので、パンプキン(西洋カボチャ)と呼ばれる
爆弾が用いられた。新潟市が原爆投下目標の1
つになっており、その近くの長岡市が選ばれた
のである。しかし、攻撃の際は、たまたま長岡
の上空は雲におおわれ、レーダーで津上安宅製
作所を目標にパンプキンを投下した。目視によっ
て投下できなかったのも、爆弾は目標はずれ、
左近に落ちた。

(『長岡市史』通史編 下巻 p657)

これによれば、模擬原子爆弾を投下した航空団
名が違っているが、最初の投下地に長岡が選ばれ、
その理由として原爆投下候補地に新潟市が挙げら
れていたということが分かる。

昭和20年7月20日午前8時13分、信濃川に
近い左近(西宮内)に1発の大型爆弾が投下さ
れ、4人が死亡、5人が重軽傷を負った。投下
された訓練用の模擬原子爆弾は、原爆投下地
だった新潟市を想定して長岡市北部工業地帯の
津上製作所と呉羽紡績を目標としていた。雲の
ため目視できず、レーダーにより長生橋を蔵王
橋と誤って認識したため、左近の畑に投下した。

7月26日にも再度飛来したが、長岡は雲に
覆われ爆撃不可能とあきらめ、鹿瀬と柏崎に投
下した。この天候による2回の失敗により、新
潟市は原爆投下予定地からはずされた。

(『太平洋戦争と長岡空襲』p20)

以上のことから、長岡市への模擬原子爆弾の投
下が予定通りに行かなかったこと、しかし、犠牲
者が出ていること、原爆投下候補地から新潟市が
はずれたのは長岡への投下がうまくいかなかった
こと、鹿瀬や柏崎にも模擬原子爆弾が投下された
ことが分かる。

また、7月20日に長岡と同じように模擬原子
爆弾が投下されたのは、次の地点である。

- ・茨城県；被弾地は不明、日立大津か
- ・東京都；八重洲口側、呉服橋と八重洲橋中間の
堀の中、中央区八重洲現在の外堀通り、
死者1，負傷62(3)
- ・福島県；いわき平市、下高久新堤防ため池、犠

犠牲者なし
 福島市渡利、沼ノ町四反田（渡利公民館南）、死者1、負傷2
 ・富山県；富山市中田（中田公民館西）、犠牲者不明
 富山市森（岩瀬スポーツ公園北）、死者47、負傷40以上
 富山市下新西町、富岩運河の左岸（富山製紙）、犠牲者不明

長岡市左近への模擬原子爆弾の投下で犠牲になった方は次の4人である。（敬称略）

・横山 量作 長男 20歳（数え年） 国鉄職員
 ・横山五三九 三男 15歳（ 〃 ）

国民学校高等科2年

この2人は兄弟で、休みを取って朝からジャガイモの収穫を行っていた。兄の遺体はばらばらとなって凄惨な状態だった。弟の遺体はどこにあるのか全く分からなかったという。

・神林キクノ 30歳

先頭に鼻綱を持った若い男性、その後ろに牛車を引く牛、車の後ろに赤ちゃんを背負った30歳の母親。列を作った形で北に向かって歩いていた。そこへ爆弾が落ち、母親だけが死亡した。赤ちゃんは奇跡的に無事だったが、1か月後に父親と共に亡くなったという。牛引きの男性は少しばかりけがをしたがたいしたことはなかった。牛はかすり傷一つなかったという。

・横山 リノ 62歳

夫と次男と3人で家の中にいて被弾し、爆弾の破片を体に受けて死亡したという。破片を浴びただけでなく、沢山の材木や家財道具の下敷きになったのではないかと。

（『左近の爆弾』から）

（5）空襲の対象となった都市

アメリカ軍が無差別じゅうたん爆撃を行おうとした都市の順位は以下のとおりである。

1※東京	2※大阪	3※名古屋	4 京都
5※横浜	6※神戸	7◎広島	8※福岡
9※川崎	10※呉	11※八幡	12◎長崎
13※仙台	14 札幌	15※静岡	16※熊本
17※佐世保	18 函館	19※下関	20※和歌山
21 横須賀	22※鹿児島	23 金沢	24※堺
25※尼崎	26 小倉	27※大牟田	28※岐阜
29※浜松	30 小樽	31※岡山	32 新潟

33※豊橋	34※門司	35 布施	36※富山
37※徳島	38※松山	39※西宮	40※高松
41 室蘭	42※高知	43※姫路	44※四日市
45※甲府	46※宇部	47※青森	48※福井
49 川口	50 秋田	51※千葉	52 盛岡
53 久留米	54 若松	55※宇都宮	56 旭川
57※前橋	58 桐生	59 戸畑	60※岡崎
61※日立	62※延岡	63※大分	64 長野
65 八戸	66 松本	67 高崎	68※一宮
69 山形	70※津	71※清水	72 大津
73※長岡	74 宮崎	75※水戸	76 吹田
77 別府	78 釧路	79※八王子	80 奈良
81※銚子	82 大宮	83 浦和	84 高岡
85 防府	86 都城	87 市川	88 郡山
89※福山	90※大垣	91※今治	92 松江
93※沼津	94※宇治山田	95※宇和島	96 小田原
97 小松	98 弘前	99 岩国	100 船橋
101※佐賀	102 東舞鶴	103 鳥取	104 半田
105※熊谷	106 米沢	107 尾道	108 足利
109 福島	110 若松	111※明石	112 米子
113 直方	114 飯塚	115 岸和田	116 小野田
117 瀬戸	118 豊中	119 諫早	120※平塚
121 新居浜	122 釜石	123※桑名	124 鎌倉
125 岡谷	126※伊勢崎	127 津山	128 芦屋
129 三原	130※徳山	131 川越	132 山口
133 藤沢	134 帯広	135 三条	136 石巻
137 日田	138 土浦	139 彦根	140 鶴岡
141 池田	142 玉野	143 松坂	144 上田
145 飾磨	146 川内	147 能代	148 立川
149 西条	150 八代	151 伊丹	152 下松
153 三島	154 宮古	155 佐伯	156 新宮
157 萩	158 浜田	159 倉敷	160 酒田
161 福知山	162 八幡浜	163※敦賀	164 唐津
165 高山	166 栃木	167 島原	168 高田
169 平	170 七尾	171 舞鶴	172 柏崎
173 洲本	174 中津	175 海南	176 館山
177 飯田	178 丸亀	179 多治見	180 熱海

※ 無差別じゅうたん爆撃を受けた都市

◎ 原爆被災都市 32 県内の都市

（『太平洋戦争と長岡空襲』p17）

次に、大都市が無差別じゅうたん爆撃を受けた日は以下のとおりである。

・東京	'45・3・9～3・10
・大阪	'45・3・13～3・14

・名古屋 45・3・19

まさに、大都市を順次、無差別じゅうたん爆撃が襲ったことが分かる。

2 荒川町

(1) 平和記念の碑

米坂線坂町駅前に「平和記念の碑」が建っている。正面には「われらの願い 世界平和佐藤竹南謹書」と書かれ、裏面には「平和記念の碑 昭和20年（1945年）7月17日午前10時ころ坂町駅近郊は編隊を組んだアメリカ合衆国グラマン機の急襲を受けた。死者3名、負傷者数名、という血なまぐさい大惨禍。筆舌に尽くしがたいこの戦争の惨事は忘れることができない。ここにこの碑を建立し、犠牲者の霊を慰めると共に、戦争のない永遠の世界平和を、こいねがうものである。平成9年7月吉日 新潟県岩船郡荒川町」

(2) 坂町空襲

「平和記念の碑」除幕式は平成9年8月1日（金）午前10時に坂町駅前駐車場予定地内憩いの広場で行われた。今、手元に小嶋幸一氏（現村上市教委荒川事務所勤務）からお送りいただいたその時の「祝；平和記念の碑除幕式」と書かれた資料があり、これをとおして荒川町の空襲のあらましが分かる。

今から52年前、太平洋戦争末期の昭和20年7月17日、坂町駅近郊は米軍空母の艦載機（グラマン機）約10機の急襲を受けました。いわゆる「坂町空襲」です。

この空襲の様子については、当時を知る方たちのお話によるほかに方法がなかったため、その被害についても死者3名、負傷者数名しかわかっていません。今後、新たな資料の発見や往時を知る方たちの話の中で、しっかりと史実として後世に伝えられるようになればと願っています。

以下は、本日までにお聞きした内容をまとめたものです。事実と相違する点があればご容赦下さい。

終戦まで1か月となった7月に入っころには、米軍のB29が連日同じ時刻に米坂線沿い（荒川に沿ってという説もあり）に山形県方向から飛来してきて、坂町上空で方向転換し新潟方面へ飛んで行って、上空を米軍機が飛行するのは日常

化していたのだといいます。

問題の7月17日は、水田では田の草取りが真っ最中のころ、この日も好天に恵まれ、多くの農家では子どもたちに学校を休ませたりして、田んぼに出ていました。午前10時近く、関川村方向から編隊を組んだ艦載機（当時の新聞では艦上機）が約10機ゆっくりと北上してきました。

翌日（7月18日）付けの「新潟日報」によれば、敵艦載機が新潟県上空に姿を見せたのはこの時が初めてで、その時多くの住民は友軍機が飛んでいるものと認識していたといいます。ただ、首都圏から疎開してきていた児童生徒の中には、すぐに敵グラマン機とわかった者もいたそうです。

編隊はその後、進路を南西にとり新潟方面へ飛んで行きました。前述の新潟日報には、この編隊は「県都新潟と村上の軍需施設を攻撃した」とあります。当時を知る方の中には、通過して間もなく戻ってきたと記憶されている方もいらっしゃるようですが、どうやら新潟市のほか、羽越本線の天王新田駅（現在の月岡駅）を攻撃した後、坂町駅上空に戻ってきたもののようです。

坂町駅近郊が標的となった背景についても諸説に分かれていて。

- ①羽越・米坂線の分岐点で県内でも最大級の機関区があり、物流の拠点だった。
- ②駅近郊には農家の土蔵が数多くあり、その中に軍の物資が疎開管理されていた。
- ③軍事工場が操業、あるいは操業を開始しようとしていた。
- ④秋田方面からの、兵隊（予科練生という説も）を乗せた列車がちょうどそのころ坂町駅を通過することになっていた。（その列車は実際には夕方になって通過したとか）

このうち、どれが本当かあるいは全部なのか、それはわかりません。

いずれにしても10時半ころからグラマン機は上空から屋根すれすれに降下してきては機銃掃射を繰り返しました。多くの人は防空壕に入り、水田にいた人は人たちは用水などに身を沈め、また学校では机の下に身をひそめて恐怖の一時を過ごしました。

家の窓から様子をうかがった人によれば二人乗りのグラマン機から操縦する人の顔がはっきり見えたといいます。

敵機は、午前11時ころ再び米坂線沿いに仙台方面に向かって飛び去っていきました。機関区周辺では、負傷者の救出活動が始まりました。負傷者は担架や戸板などで駅前の遠山医院に運ばれました。

ホームにいた乗客のお年寄りの男性は足を撃たれ出血多量で死亡、機関士の谷屋長二郎さんら二人が手を負傷、停車中貨物列車の機関車の次に連結されていた緩急車の中では、福井トミさんが片腕を負傷、金子千鶴さんは腹部を撃たれて死亡しました。また、機関車に水や石炭を補給するための炭水台近くの防空壕で若い国鉄職員一人が被弾して死亡しました。

ほかに、駅近郊の土蔵なども数多く被弾し、坂町地内には半世紀が過ぎた現在でも弾の跡が残る土蔵もあるということです。また、これと時を同じくして駅近くの木工所付近から出火（焼夷弾だという話もありますが、因果関係は定かではありません）し、木造の建物が焼失してしまいました。

このほかの被害については、はっきりしていません。おわかりの方があれば、教えていただければ幸いです。（未定稿）

（3）新潟日報の記事

新潟日報の7月18日付けの記事は空襲一色である。見出しだけを拾っても次のようである。

「艦上機連続来襲 宮城、福島、茨城、千葉各航空基地攻撃」「艦上機県下初来襲 昨日約十機、新潟村上へ投弾」「宮城、福島両県下へ八十機」「戦爆二百三十機九州各地へ」「B29百九十機 平塚、沼津焼爆」「九十機桑名へ」

3 直江津黒井

（1）上越市史から

直江津の空襲は、昭和20年5月5日の午前11時過ぎであり、B29爆撃機が直江津の工場地帯に飛来してきた。激しい半鐘の音とサイレンが響き、人々は大急ぎで防空壕に逃げ込んだ。

最初に落とされた6個の爆弾は工場に当たらなかったが、近くの水田に落ち、更に投下された1個は黒井駅近くの倉庫に当たって破裂した。そのため、駅で作業していた人と、たまたま農作業をしていた2人が即死し、他の1人は病院に運ばれたが間もなく死亡した。このほか4人が重傷を負った。B29は11時40分ころ長野方面へ飛び去った。

このことについて「新潟日報」は、5月6日付の新聞に“B29県下に侵入投弾―恐れず固めよ防空体制―”という、3段抜きの記事を掲載している。

なお、この爆弾投下から35年後の昭和55年7月24日、三ツ屋町地内に埋まっていた不発弾の処理が自衛隊によって行われ、午前9時52分から信管取り外し作業が始まり、10時14分に完了した。（以上『上越市史』普及版 p253）

（2）「こんな日々があった」から

上越市史から昭和20年5月5日に空襲があったこと、昼間爆撃であったこと、犠牲となって亡くなった人が3人いたことが分かる。そこで、これらについてもう少し詳しく見てみたい。参考にするのは「こんな日々があった―戦争の記録―」からである。

再度、木沢さん（黒井在住の木沢清治さん）の証言を引く

一父・輔太郎さんは当時54歳で、黒井駅の操車係（転轍手）を勤めていました。作業の都合で転轍小屋で早昼食をとっていたようです。弁当箱が現場に散乱していましたから。この最中、近くの倉庫に落ちたその爆風で右胸部をえぐり取られて即死したのです。遺体はあまりにも無残で、女や子供にはどうてい見せられず、男だけで処置しました。頭から足の先まで全身ホータイにおおわれて誰だか見分けのつかないありさまでした。死亡時刻は11時35分と診断書に記されました。

次に、水田耕作中に被弾して亡くなった坂詰竜策さん（当時56歳）の子竜吉さんの証言である。

一近所の人の知らせで現場へかけつけた時、父は爆弾投下の地点から約10m離れた所にうつ伏せに倒れており、そこからさらに5mくらい距てた所に三本鍬が投げとばされていました。右手首・右大腿部・背中などに弾片の跡がありましたが、致命傷は内臓破裂でした。抱き上げようとしたらアバラ骨がガサガサになっていました。爆弾が父を強烈にたたきつけたのです。

最後に、当日リヤカーで遺体を運んだ一人という木沢重男さん（爆死者木沢輔太郎さんの甥）の証言では、「日通黒井営業所勤務の人＝目に負傷して死亡、住所氏名不詳」となっている3人目の犠牲者である。幸い、黒井在住で当時15歳だった平原きみさんが覚えていた。

一この人は東頸城郡浦川村顕聖寺の石田一太さ

んで、爆風を眼球に受け、手ぬぐいでおさえて麓病院へ運ばれたが、まもなく死亡したという。

4 柏崎市

(1) 柏崎市史から

柏崎市への空襲については、以下の記述がある。

昭和20年4月21日、朝、アメリカのB29（大型爆撃機）が市の上空を通過、また、7月24日午前8時35分長野方面より県南部に侵入したB29一機は柏崎付近より日本海に抜けたかに見えたが、反転し、西中通村長崎地内越後線の両側に爆弾2、3個投下し、長野方向に去った。被害としては、この時付近で他の草取り作業中の女子2名が爆死、重症者2名、軽傷者4名を出し、住宅の硝子窓が破れ硝子が飛散した（柏崎消防本部事務報告書）

（以上『柏崎市史』下巻p660）

(2) 被弾して亡くなった阿部ヨネさんの子ども（阿部美津子さん）の聞き取り

2010年（平成22）に阿部美津子さん（当時10歳）から聞き取りをしたことは以下のとおりである。

- ・爆弾が落とされたのは昭和20年（1945）7月26日の午前のこと
- ・母（数え年36歳）は田の草取りをしていて被弾、その日のうちに亡くなってしまった。
- ・自分（阿部美津子さん）は日吉小学校で朝礼があり、校長先生の話があってその後帰宅した。
- ・爆風で自宅の戸が壊れていた。
- ・妹がはしかのため母は世話をしていたそれから田の草取りに出たところ、爆弾が落ちた。
- ・自分は5人姉妹で、姉は作業中に話を聞いて帰ってきた。
- ・父は消防団で出かけていた。
- ・母は裏の家に安置されて葬儀は執り行われた。
- ・絹の丹前（どてら）を取りに行った際に亡くなった母と対面した。顔に火傷の痕があり、右手と右足が爆風で取れてしまい、右手は別に置いてあった。
- ・母とは別に他の草取りをしていた人が2人いた。
- ・その一人が本間マスさん（70歳）で、破片が頭に当たり昭和20年8月1日に亡くなった。
- ・他に本間カズヨシさんも亡くなった。
- ・爆弾が落ちたところに砂を盛って平らにした

が、中越沖地震でその穴がまた出てきた。

5 今後の課題

新潟県史「通史編8」（p861）には新潟県下の主な空襲として24回あったとし、それぞれの空襲について機種・機数、侵入日時・進入経路、攻撃内容の3点から一覧表にまとめている。8月1日の長岡空襲、7月17日の坂町空襲、5月5日の黒井空襲、7月26日の刈羽空襲はきちんと載っているが、5月5日の空襲については「被害ほとんどなし」となっている。柏崎での被弾についても柏崎市史の記述に誤りがあったり、爆弾がパンプキンの原爆模擬爆弾であったことなど、さらに詳しい調査をして被害の実態を明らかにする必要がある。今後は全国的な状況における位置づけも明らかにしていきたい。

引用参考文献

- ・「八王子の空襲と戦災の記録」総説編 八王子市教育委員会 1985
- ・「太平洋戦争と長岡空襲」
- ・「長岡空襲の体験記録」
- ・「長岡市史」通史編 下巻 長岡市
- ・「左近の爆弾」
- ・「上越市史」普及版 上越市
- ・「こんな日々があった」
- ・「柏崎市史」下巻 柏崎市 1990
- ・「新潟県史」通史8 新潟県 1988